

## 気仙地方におけるニホンジカ剥皮被害の発生時期調査

### 1 気仙地方のニホンジカ剥皮問題

気仙地方は「気仙スギ」の産地として有名です。産出されたスギ材は地元、県内はもとより関東圏など全国にも出荷されています。

しかし、造林してもニホンジカ(以下「シカ」)の食害を受けて、山林所有者の造林意欲が減退していることなどにより、伐採後の再造林が進まないことが問題となっています。

そこで、大船渡農林振興センターでは、シカ被害対策のため、地域経営推進費を活用し各種防除法の改善点を探るための情報収集に取り組んでいます。今回は、防除法の一つである「忌避剤散布」に関連して行った調査・情報収集の結果を報告します。

### 2 剥皮被害の発生時期調査

気仙地方では「樹皮を食害するための剥皮」(以下、「剥皮」)が問題となっていますが、その発生時期はよく知られていません。そこで、陸前高田市のスギ6年生生林分で調査を行いました。令和3年3月22日から7月19日まで11回にわたり剥皮の有無を確認したところ、調査した127本中27本に剥皮が認められました。また、剥皮は3月22日から5月7日まで発生し、特にも3月22日から4月6日の間に全体の82%が集中して発生していました。

### 3 調査事例の情報収集

大井(1999)が気仙地方で被害発生時期を調査しています。それによると、枝葉の食害は12月から5月まで、剥皮は3月から4月まで発生していました。さらに、いずれも冬季の食物欠

乏のため発生し、剥皮は食物欠乏期の後半にスギ樹皮が剥がれやすくなるために発生すると考察しました。

大井が調査した剥皮の被害発生時期は、今回の調査結果とほぼ一致しており、気仙地方の剥皮は、下草や木々の新芽が伸び始める直前の3月下旬から4月初旬にかけて集中的に発生していることが明らかになりました。

### 4 今後の取組

忌避剤散布は、枝葉の食害が始まる晩秋に、枝葉、幹の両方に散布するのが一般的です。忌避剤の効果持続期間は現場の条件によって異なりますが、被害発生直前に散布するに越したことはありません。剥皮を防ぐことに狙いを絞れば、被害発生期(3月下旬～4月初旬)の直前に、幹だけに散布するという方法が考えられます。

大船渡農林振興センターでは、今後も地域経営推進費事業を活用し、本件も含めた防除法の確認や情報収集を進めていく予定です。



調査地遠景

剥皮により主軸が枯れても新芽が株立状に伸びるため、緑豊かで健全に見えるが、実は9割が剥皮被害を受けている激害林。